

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

理念

RESPECT EACH VALUE

心構え

ゆ揺るがない

あきら諦めない

とら囚われない

かたよ片寄らない

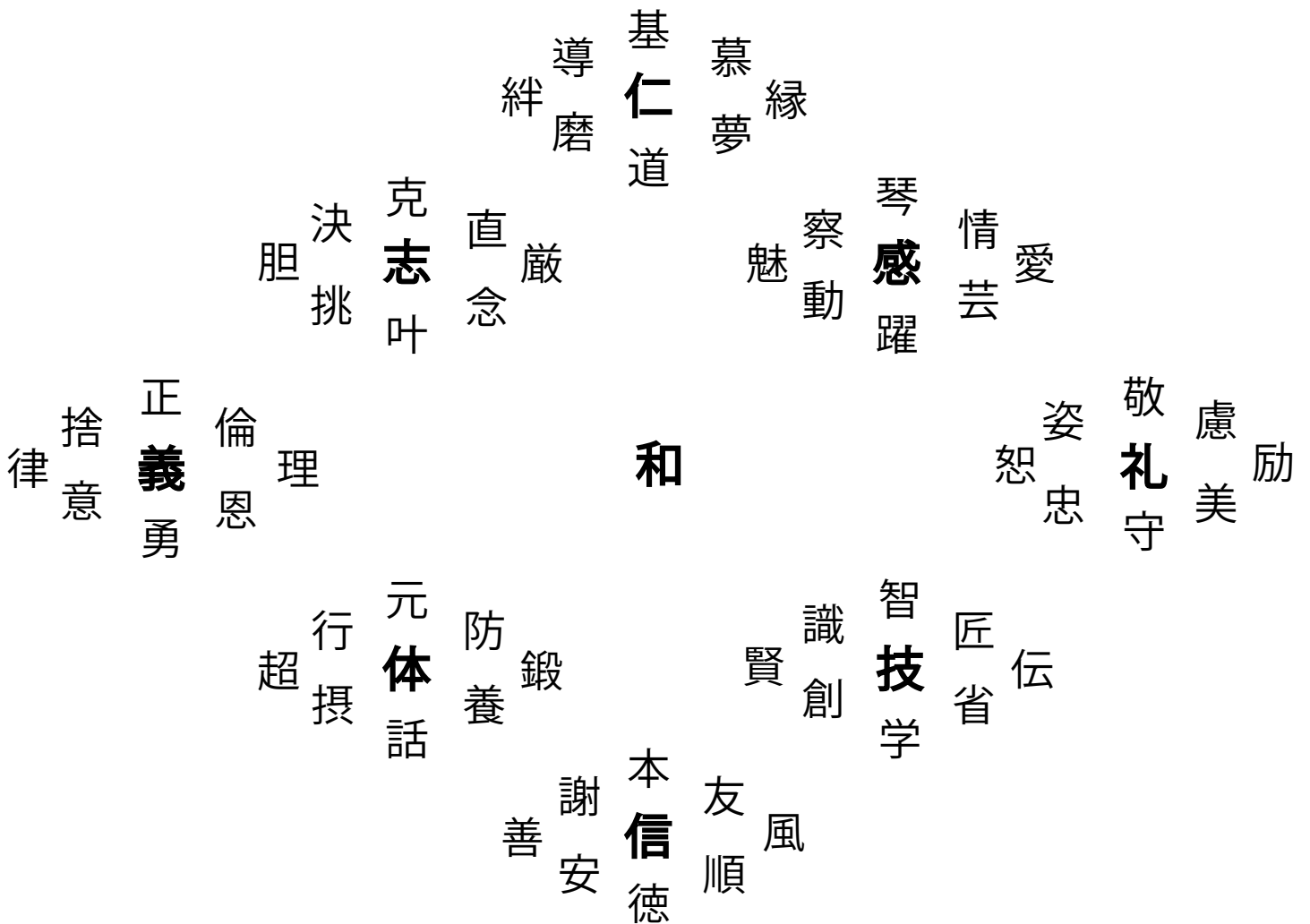
はな離れない

とど留まらない

褒めて 学んで 教えて 明るく
今日を 未来を 皆を 楽しく
声が 体が 心が 元気

私たちは理念を心中深く考え願い
行動の規範とします

Values まんたら曼荼羅



RESPECT

①見直すことに終わりはない

価値向上に終わりはありません。昨日より良い価値を求めて行動します。時代も顧客も常に変化して予想がつかないものです。会社の価値も自分の価値も常に変化して適応向上していかねばなりません。

FPDCAを回すこと。Factor^{ファクター}事実認識、Plan^{プラン}仮説設定、Do^{ドゥ}実行、Check^{チェック}結果検証、Action^{アクション}カイゼン。各自が自発的に報告連絡相談して回していきます。

仮説目標はSMARTに。Specific^{スペシフィック}具体的に、Measurable^{メジャラブル}数値化して、Action-oriented^{アクション オリエンテッド}行動をイメージして、Realistic^{リアリスティック}現実的な、Timed^{タイムド}期限を決めて設定します。

無駄を省き不正を排除するのも見直しが必要です。思わぬ無駄や不正があるものです。お客様からの要求も不当であれば尊重しながら排除していきます。

逆側から見てみることもrespectです。会社が社員、顧客、銀行、行政、地域社会などと同様に、個人にとっても親族、会社、上司、部下、顧客、地域社会など関係します。顧客から見たときにほかの店より価値がなければ利用しません。顧客以外の地域住民にとっての店。上司にとっての部下。部下にとっての上司。老若男女。様々な目線が必要です。

見直すためには学ぶことが欠かせません。部下から学び、上司から学ぶ。理解力がなければ見直すことができません。全てこの世に生きている人は神ではないので欠点があります。悪いところは指摘して、善いところを素直に学んでいきます。いつも見直すのは第一に自分です。

ソクラテスは、真^{たんぎゆう}の知を探求するためには、まず自分が知らないと自覚することで学びが始まると言っています。謙虚^{けんきよ}に学び続ける、知っていることの範囲を把握することが知っているということです。

②尊敬する

一人ひとり、自分と違う価値があるはずです。見つけてほめて伸ばす努力があれば向上します。先人^{せんじん}の教えや先輩の教えを有難^{ありがた}く受け止めなければなりません。身近にいる人の中にも導師^{どうし}として導いてくれる先輩がいるものです。見つけて尊敬^{した}し慕^こって教えを乞いましょう。後輩^{げんぱい}については人格を尊重して理解できる言葉で言行を指導していきましょう。ライバルの欠点を探して自己保存^{おちい}に陥らず尊敬できる異なる価値を認めて見習います。他人を否定しては自己の改善^{こっさ}につながるチャンスを失います。人の足を引っ張らず、先人や上司や同僚や部下を尊敬することは克己^{しん}心なくしてはできません。

聖徳太子や孔子やブッダやソクラテスやデカルトやコトラー、凄い人たちの知恵を借りることができれば人生は豊かになります。国が違う、時代が違う、と否定せず、時代背景や学んでいたものなどにも踏み込んで初恋の人^{した}を慕^{たようせい}うように情熱を以て尊敬したいものです。違いに焦点をあて自己保存するのではなく、違いを尊重して多様性のある組織にして、互いの価値が相互補完して絆となるような組織にします。

尊敬と盲従は違います。目は外向きにしかついていないので教えあうことが不可欠です。

③たった一つのこと

つまり尊敬することと見直すことの語源は同じことです。価値観の異なる他者を尊重しなければ自己を見直すことができず、従ってカイゼンすることはできず、価値も向上しません。Values^{バリューズ}も和を含めて総てがたった一つの意味を表しています。

VALUE

1 志など8個のVALUESを第二階層として掲げます。第三階層が漏れなくダブリなく第二階層の
2 different valuesの構成要素とならなければなりません。第二階層もすべての価値が漏れなくダ
3 ブリなく構成されていなければなりません。全てが漏れなく向上していくように努力します。迅
4 速と丁寧は価値の二つの側面です。二項対立でなく、四分割でなく、より多くの様々な価値のバ
5 ランスを取っていきます。対立矛盾した概念も否定消去せずintegrateすることがrespect each
6 valueということです。

7 より根本的に、より長期的な価値向上を目指していきます。短期的で些細な価値が不要という
8 わけではありません。緊急性がなくても重要な価値向上には継続的な努力が必要です。短期的に
9 成功した企業が長期的には衰退していった事例に気づき、長期的な戦略を立てます。正々堂々と
10 は堂々とした陣形をくみ上げて正しい旗印つまり理念を掲げて戦うことです。

11 多様な価値が集まっていることに意味があります。虹のような光の色には様々な色を集めると
12 光り輝く無色となります。燦然と輝く組織にします。一人一人が輝き、一つ一つの価値が輝き、
13 すべての色がそろそろように全体最適を求めていきます。どこかだけが輝き、他が輝いていないと
14 いうことが無いようにRESPECTしていきます。

価値向上とは

15 上達と云うことはeach value を細かく微分して漏れなく重複なく追求した上で全てを積分して
16 全体の解像度と抽象度を上げていくこと。上達と価値向上を考えます。それぞれの価値を遠い将
17 来の損得を考えて向上すると共にrespectして上達していきます。IC(integrated circuit)とは真
18 空管の働きをひとつ残らず生かしたまま集積した回路のこと、すべての価値をひとつ残らず向上
19 して集積します。

20 価値向上のためには内発的な動機によって常に勉強して行動や質問をします。生まれながらに
21 理解が早い人は最高です。学んで理解する人もいます。全く学ばない人は最低です。絆を結ぶに
22 値しない人も残念ながらいます。グループが一つの船として未来に向かうときに、絆で結ばれた
23 人だけが乗っている、そんな船を目指します。

24 お客様に選んでいただける価値のある会社を目指します。VALUEの微分を常に考えて要素を見つ
25 けていきます。男女の価値、年齢の価値、年寄りの知恵、大胆な人、慎重な人。今まで価値だと
26 思っていなかったものも磨けば価値になります。赤石赤光、青石青光、自分の価値を磨き上げま
27 す。人の価値を見つけてあげます。

28 Totus mundus agit histrionem. (世界中の人々は役者として生きている) 私たちは何かの役を
29 演じています。誰かの子供として、誰かの親として、誰かの代表として。役割を担っていること
30 で劇が成り立つようにスキル・アップして立派に役を務めていかなければなりません。価値向上
31 とは役が上達することと、そして新しい役ができるようになることです。

32 新しい難題に取り組み不断の努力をした人と、無難に人生を過ごしてきた人とでは、経験値が
33 異なります。勉強し体を鍛え精神を鍛え、経験値を上げていきます。自分の価値を「こんなもの
34 だ」と諦めず自分の長所を創ります。

35 内面と外見も両方に気を配り価値向上していきます。全ての価値を向上しなければなりません
36 。内面だけよいと粗野、外見だけよいと空虚です。

和

全てのvaluesはたった一つのこと。

十七条の憲法。第一条（原文「一曰。以和為貴。無忤為宗。人皆有黨。亦少達者。是以或不順君父。乍違于隣里。然上和下睦。諧於論事。則事理自通。何事不成」）。和は尊いもの。皆と違う、正しくない親や上司や決まり事に逆らうものですが、皆と言っても実は小集団で他の集団もあります。親も上司も自分も、正しく完全な人はいない、逆らわないように。仲良く論議することができればベクトルは合ってきて何事も成就するものです。

17条の憲法を簡単にまとめると。1条. 和が尊い。2条. 仏教の死生観を学べ。3条. 上司の言うことは実行せよ。4条. 上が失礼なら秩序が乱れ、下が失礼なら罪を犯す。5条. 私欲を捨てて人の意見を聞け。6条. 懲悪勸善。7条. 権限を乱用するな。8条. 早起きして仕事を残すな。9条. 信は義の本。10条. 自分が偉く相手がバカと怒りを表すな。11条. 功罪を考えて賞罰は必ずせよ。12条. 不正をするな。13条. 職務を全うせよ。14条. 嫉妬したら賢者には会えず学ぶ機会を失い人材が集まらない。15条. 私心を捨てよ。16条. 人を使うときには相手の都合を考えよ。17条. 独断は避けよ。と。といったことが書かれています。

このような気持ちで報告連絡相談をしたり、会議をしたり、会社行事をしたり、私達は親睦を深めて思いやり、他者を排斥しません。対話法を身に着け、共通の考え方を明確にし、次に違いを尊重して、より良い考え方に至ります。コミュニティはコミュニケーションから作られてきます。

付和雷同という言葉があります。同ずるが和していないということです。意見が合う人だけで集まることは多様性を排除することになります。礼を持って接し、互いの異なりを尊重して多様性から学び和して成長する集団にします。

志

克己、愚直、厳しさ、揺るがない、念じて叶える、挑む、胆力、決意などが第二階層。

天命として決まったものもありますが、それに流されていくのは運命といい、志を立てて立命していけば、その後の人生が変わり、チャンスも多くなります。勉強や運動に励み今の地位があることを喜び更に上を目指します。運命を嘆き無為に過ごし、人を恨んで罪を犯し、嫉妬して足を引っ張る、そんな人生は志がありません。

疾風に勁草を知る。強い風が吹いても雑倒されない。欲に流されない、公私混同しない、諦めずに最後まで遣り遂げる意志。信賞必罰をためらわないのも志の強さ。無駄遣いをせず靴や衣服や姿勢や言葉など外見を整え礼節を守るためにも志が必要です。

志を以て困難な目標でも胆力を以て達成し夢を叶えていく。それこそが素晴らしい人生。生老病死、愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五陰盛苦、四苦八苦は当たり前。怒らず、逃げず、否定せず、取引せず、鬱にならずに受容して人生を全うしていきます。煩惱は普段の棲家。私たちは火宅の人。自分の心の奥底まで内観して全てを受け入れ、倫理観を持った志を本に規律正しく生きていきます。

自分の中に善は勧めるべきです。しかし、自らの善を誇ってはなりません。生物である自らの内面は、常に悪の炎に燃えています。自らの悪を顧み得ない者は、自我の小善を高ぶりがちです。しっかりと内観し自他ともに悪人の要素を飼い慣らさなければならぬ身であると謙虚になって、正しい志を身に着けます。

感

心の琴線、五感、慈愛、共感、情、魅了、至芸、察する、感動、躍動、などが第二階層情に掉させば流され、理に働けば角が立つ。一時の感情で激昂して身を滅ぼすことも有ります。理屈だけでなく情で仲間を大事にします。

認知と行動は密接につながってしまいます。最悪と認知しても言行に顕れなければ認知と行動の負のスパイラルに陥らないので重症化せずに感が傷つかずに済みます。行動が変われば人格が変わっていきます。Awarenessは感向上の第一歩です。

色眼鏡をかけていることに気が付かないことがあります。時にはsense of wonderを刺激し、心の琴線を震わせて感を鍛えましょう。張りつめても緩んでも琴線は共鳴しません。指導や指摘をする側もされる側も「ありがとう」「ごめんなさい」と素直な情で共感します。頑張った人生を送ってきた人にとって、頑張っている人は応援したくなるのが情です。

つながりを感じるとセロトニンというホルモンが生成され幸福感を味わうことができます。目標や夢を達成したときにはドーパミンが出て幸福感が生まれます。

私たちはお客様によって生かされています。しかし何故私たちを選んだのかは顧客に聞いてもヒューリスティックなので私たちには理解できません。また常に顧客嗜好は変化しています。従って顧客以上に顧客のことを察して先回りしてサービスしなければなりません。

芸術に触れることも感を鍛えることになります。映画や劇を見て涙する。素晴らしい音楽を聴いて心が奪われる。読書をしていて思わず夜が明けてしまう。夕焼けに目を取られて佇んでしまう。そんな体験が感を鍛えます。

ユーモアのセンスもゾーンにいるために磨きましょう。緊張しすぎてガチガチになる状態でもリラックスしすぎて力が抜けている状態でもない最適な精神状態にするようにしましょう。

技

匠、模倣して学ぶ、授、伝、言語、知識、叡智、省く、創造、賢明、質問力、などが第二階層

技には現場で通用する技と、日常や他の世界など横展開できる汎用性の高い普遍的な技があります。就労して最初に必要な現場の技をある程度身に着いたら、理念に基づき理解するための技を身につけましょう。就労当初には技が不足しているかもしれません。国語も外国語も算数理科社会も必要です。一般教養を身に着けてから専門課程に入るように、不足していた一般教養の再履修をしていきましょう。走るにも読書するにも挨拶するにも技を磨く必要があります。

読み書き計算は技の前提。PCスキルも英語力も国語力も読解力も識字が前提、語彙力も技。また対話法も技術です。訊きだす技術と伝える技術を向上させコミュニケーション力を向上させ、言葉の定義を明確にして私達の共通理解を進めていきます。

好奇心を以て常に新しい「技」をもとめていきます。生まれてすぐは学ぶ本能を持っていて、熱心に這うことを身につけ、立ち上がり歩いていく。新しい技量が身につけば一つ上の道が見えてきて次に必要な技も見えてきます。

振り返ってばかりでなく前を向いていきましょう。夢に向かって技を身に着け磨いていくことを楽しむ。技を独自に開発する前に東西古今の古い技術を尋ねて技を学びます。謙虚に克己心を以て後輩や新人からも学びます。毎日コツコツと技を磨きます。

体

根元、行動、鍛錬、体話、攻撃、防衛、栄養摂取、超回復などが第二階層

体はすべての基本。体温調整・免疫・ストレス抵抗の防衛体力、筋力・俊敏性・持久力・パワーの行動体力、其々鍛え方が違います。鍛える部位によっても鍛え方が違います。全ての体力を鍛え病気やストレスに負けない体を作ります。一度鍛えても休みすぎると元に戻り、限界を超えた鍛錬の後、栄養と安息を可不足なく取り超回復まで待ち、休みすぎて退行委縮する前にまた鍛錬することで初めて以前より一歩体力が向上します。季節が変われば必要な体力も変わります。戸外運動で恒常性維持機能を高め生存能力を向上させます。

季節が変わっても、ストレスがあっても、何があっても体調が維持できるように鍛えます。食事規則正しく糖質・脂質・蛋白質の三大栄養素のバランスを取り代謝を整えます。ビタミン・ミネラルに加えて水分も規則正しく摂取します。

健全なる精神は健全なる身体に宿ります。体を鍛えることは全ての根元。ルールやマナーで精神を磨き、予想できない事態に的確かつ迅速に対応します。スポーツを通じて培われた能力は実生活の要求の大半をカバーします。マラソンは最初から最後まで一定のペースを守ることが必要ですが、克己心と計画性だけでは足りません。自分の体と話して気づき、最初からペースを変えて完走します。素朴な運動の喜びを公正に分かち合い感動を共有し、身体的諸能力を洗練することで、自らの尊厳を相手の尊重に委ねる相互尊敬に至ります。運動すると、集中力が高まる、アイデアが出る、睡眠が深くなる、疲れがとれる、脂肪が燃焼して痩せる、筋肉が付き太りづらくなる、健康が維持される、達成感を味わえる、幸福感を味わえる。

仁

基盤、慕われる、道を志す、絆、夢、磨く、教育、導く、縁、などが第二階層

道に志し、徳に拠り、仁に依り、芸（礼・楽・射・御・書・数）に遊ぶ。将来のことを考えて学び教え親睦を深め次世代のリーダーを創る。独りよがりにならないようにみんなのことを考える。

難しいことや嫌なことを率先して実行する。先憂後楽、天下に先んじて憂い、天下に後れて楽しむ。自分が立ちたいと思えば人を立て、自分が先に行きたいと思えば人を先に行かせ、他人事も自分事に思う。こうした人が美しく立派です。そうした人になりたいと目指すことから始めましょう。自己保存の本能から現在の自分を肯定することなく謙虚に。この人は仁者だと思える人に寄り添い学んでいきましょう。

育て導くことで自分も育つ。理念を具体的な仕事上の指導に落とし込んで説明することも仁。読めない漢字を教え、伝わらなければ伝え方を変えます。その人を知るために様々な質問をして理解していきます。その人の成長に寄り添い一步一步丁寧に教え導きます。

徳の無い人に徳を以て答えることは仁の道ではありません。徳のある人とならない人と区別して対応しなければ徳のある人に報いることができない。仁とは優しいだけではありません。外見を整えて立派であり、教えを乞うと優しく、時に厳しい指摘で毅然としている、そんな多様性を一身に表わしている者を目指します。取り繕わず人に接する、そんな自然な愛情が仁です。何時如何なる時にも仁を忘れずに自己を磨き続けます。

義

正々堂々、規律、恩、利、意、勇氣、意思、倫理、喜捨、などが第二階層人として、人の為、組織の為に行わなければならない道。絆を親子から家族へ、組織へ、地域へ、拡大して人類愛につなげます。

自分の役割をしっかりとこなして、会社の役に立ち、お客様の役に立ち、仲間の役に立ちます。役立つことを知れば、自分にとっての幸せを実感します。それまでの苦労も喜びに変わります。絆を深めるだけでは不十分で、自分の仕事と他人の仕事の連携をしっかりとこなし組織の歯車を回し、近くの人を助けたり替わってあげたり、組織の存続・発展に役立つ存在になります。誰かの指示で動くのではなく、ジャズセッション型の組織。誰かがリードしていたらみんながフォローする。誰かがいなくても誰かが変わる。そんな組織を目指します。そんな絆を目指します。

部下に対して権限移譲して義をなす機会を与えます。理念に基づき考え方の本が建てば権限委譲しても将来を目指す方向性はブレないので行く手の道は自ずから開けてきます。個々が臨機応変に戦術を組み立てていくことができれば、どんな難局も突破できます。

生まれてすぐに利他の心はありません。親の愛情を感じ感謝の心が生まれたときに利他の心が生まれます。家族愛が地域や社会に広がっていくことによって共に生きる喜びを見出した時に、義も見えてきます。

喜んで自分の命さえ捨てて捧げることが義です。例え卑怯者と蔑まれようとも勝ちたいと思うのが人情であり、美学より生き残りを選ぶのは本能です。義を貫くには勇氣が必要です。

礼

敬う、質直、遠慮、励行、厳守、忠、恕、忍、美、和顔愛語、姿勢態度、四海兄弟、などが第二階層

秩序を保つための生活規範。関係するすべての人が和を以て集まるためには親しき仲にも礼儀あり。約束遵守は社会人の最低限のマナー。朝終礼は仕事のけじめ。時間に間に合わなければ失礼です。言葉が失礼にならないように謙譲語・尊敬語・丁寧語に配慮します。礼を以て接すれば四つの海を越えた全ての人々が兄弟のように仲良くなります。恕は相手に寄り添うこと。恕の心がなければ礼ではありません。TPOを踏まえず丁寧なだけでは慇懃無礼になります。

守礼の心は、言葉の一つ一つ、動作の一つ一つに顕れてきます。形だけではなく、どのように相手に伝わるか、心を大事にします。挨拶は心の扉を開ける鍵です。自分から進んで元気に輝く挨拶をして相手に心を開いてもらいましょう。

礼に従っている人を見ると美しいと感じるものです。時代によって礼の規範は変わってきますが、素晴らしい人が美しいと感じるものを求めていきます。和顔愛語、姿勢態度は訓練が必要です。身に着くまでに時間がかかります。

礼を尽くし、尊敬をもって一切を師に任せて従って行く態度でないと師の持っているところのものを自分のものにするには出来ません。師と心が一つになった時、初めて師のもつものが自分に乗り移って来ます。これが真の意味の習得です。節度は折目正しく、敬意を払い、出処進退を程よくして、師のもつ態度を常に見習い、真似して、よい所を吸収せねばなりません。

信

1 全ての^{もと}本、活かす、徳風、安心、善、順、謝る、友人、頼り、などが第二階層
2 組織を維持するためには信が最も優先される^{こんぽん}根本。戦う武器がなくても、食がなくても、お
3 互いの信用があれば国家も会社も存在基盤を失うことはありません。信用を得るためには徳の風
4 を吹かせ人々が^{なび}靡いてくるようにしなければなりません。徳のある人は必ず周りに人が集まって
5 きます。

6 一人でできないことも協力すれば出来ます。だから組織や会社となるのです。本が立てば解
7 決への道、価値向上の道が開けます。一人では達成できない大きな目標を皆で歯車を噛み合わせ
8 て追いかけるためにチームがあります。直ぐに欠けてしまうような歯車では同僚から信用されま
9 せん。励まし合い、信頼に応えます。アレクサンドル・デュマ・ペールが書いた三銃士の中で、
10 勝利のために互いを信用して力を合わせる言葉、「un pour tous, tous pour un」(one for all,
11 all for one)が有名です。私たちも仲間の力の最大ベクトルを合わせて^{かんなんしんく}艱難辛苦を乗り越えまし
12 ょう。

13 言葉だけでは信は成り立ちません。行動によってのみ信は勝ち取れます。間違いを起こした
14 後に同じ間違いをしないためにどのような行動を起こすのか。^{あやま}過ちて改めざるを^{あやま}過ちといひます
15 。改めれば過去を消すこともできます。しかし失敗を改めて信用を得るためには、何もない状態
16 で信頼を得る時と比べて数倍の努力が必要です。

終わりに

17 理念は学びの第一歩として、最終目的として、関係するすべての人が同じ船に乗って航海す
18 る為の^{らしんばん}羅針盤として、迷った時の^よ寄る^へ辺として、日々の仕事の判断基準として、人生の判断基準
19 として、全ての人の意見をまとめていくものです。10年を超えて改善し続けた結果として現在が
20 あります。新しく仲間となった人たちにも理念を理解して改善する仲間となってほしいと
21 思っています。文中に難しい言葉や外国語が出てきますが、先輩に聞き、ネットで検索して、皆
22 で話し合っ理解を深めていってください。

2003年、社訓を制定。 2004年、理念を制定。 2005年、心構えを制定。

2006年3Q、カイゼン導入。4Q、パワーポイント導入。

2007年4Q、コミュニケーションの項目を追加。

2008年1Q、問題解決方法を変更。4Q、明るく、楽しく、元気よく追加。

2009年1Q、コーチング追加。4Q、全体見直し。2010年2Q全体見直し。

2011年2Q、1ページ目「理念」と「心構え」を理念の根本とする。

2012年2Q、全面改訂

2013年2Q、心構え、及びその他の改訂